

序論)

2018年に行われた一般社団法人倫理研究所によって行われた「社会のなかの自分」に関する調査報告によると、「自分らしさを探すことが大切だ」と思っている人が84.3%で、「どんな場面でも一貫した自分らしさを維持したい」と思っている人が約60%だったそうです。この調査は15歳から69歳までの男女を対象としており、約1100人の回答による結果だそうです。

多くの人は、自分とは何者なのかを探しています。そして、あわよくば本来の自分を見つけて、どんな状況でも揺らぐことのない自分らしさを維持したいと思っているようなのです。

ところが、問題はその自分らしさを多くの人が見つけることができないでいる。ということです。みなさんにとって自分らしさとはなんでしょうか。

ある人は自分の好きな趣味に没頭している自分を本来の自分と考えています。

ある人は家族や友人に認めてもらえる自分を本来の自分と考えています。

ある人は自分が行っている行動が自分の本来の姿を形付けると考えています。

そして、ある人は自分の信念や価値観が本来の自分だと考えています。

このように多くの人が本来の自分を探しているのですが、実際にはその本来の自分を定める基準には普遍的なものがなく、結果として多くの人が本来の自分の姿がわからない状態で悩んでいるというのが現状のようです。

前回もお話したように、バビロン捕囚に連れて行かれていたユダヤ人たちも本来の自分を見失っていました。今日の箇所はそんなユダヤ人たちに対して改めて「本来の姿に目覚めよ。」と【主】が命じておられる箇所となっています。

1) 神様からの命令 - 本来の姿に目覚めよ

52:1a 目覚めよ、目覚めよ。力をまといえ、シオンよ。

51章から数えると「目覚めよ」という語りかけは今回で3回目となります。1回目は51章9節のイスラエルから【主】に向けてのことばです。彼らはバビロン捕囚の苦しみの中で神様が自分たちを助けるための御腕を動かしておられないと感じ「目覚めよ、目覚めよ。力をまといえ、【主】の御腕よ。目覚めよ。」と語りかけています。

これに対しての神様の応答となるのが前回学んだ51章17節「目覚めよ、目覚めよ。エルサレムよ、立ち上がれ。あなたは【主】の手から憤りの杯を飲み、よろめかす大杯を飲み干した。」という神様のことばでした。イスラエルはバビロン捕囚

の苦しみによって神様の憤りの杯がいつまでも自分たちに注がれ続けていると誤解していました。しかし、そんな人々に対して【主】は「あなたは【主】の手から憤りの杯を・・・飲み干した。」と語られたのです。つまり、バビロン捕囚を経験したことによって神様の怒りは終わったのです。だから、神様はイスラエルに向かって、いつまでも怒られていると思って、悲劇のヒロインのような状態になっていないで【主】の民としての自分に目覚めなさい。と語りかけてくださっていたのです。

そして、今日の箇所では神様はもう一度「目覚めよ、目覚めよ。力をまとえ、シオンよ」と語りかけておられます。これはどういったことなのでしょう。続く1節の後半部分と2節を読んでみましょう。

52:1b あなたの美しい衣をまとえ、聖なる都エルサレムよ。無割礼の汚れた者は、もう二度とあなたの中に入っては来ない。

52:2 ちりを払い落として立ち上がり、元の座に着け、エルサレムよ。あなたの首からかせを振りほどけ、捕らわれの女、娘シオンよ。

【主】は1節で「あなたの美しい衣」と言われています。イスラエルにおける美しい衣というと、大祭司が着ていたエポデを思い浮かべます。エポデはこのように（絵）金、青、紫、緋色といった豪華な色のより糸で作られ、胸当てには12の宝石が付けられていました。また、【主】は2節で奴隷の状態をやめて「元の座に着け」と言われています。なぜ、このように言われたのでしょうか。それはイスラエルは元々【主】の祭司の王国だからです。出エジプト記のみことばを読んでみましょう。

出エジプト記 19:6

あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。』これが、イスラエルの子らにあなたが語るべきことばである。」

イスラエルは元々、神様に祭司としての働きをするために導かれた王国でした。しかし、彼らが【主】に逆らい、【主】の裁きを受けなければ行けない状態になったため、彼らはその本来の自分たちの姿を見失っていたのです。

2) 本来の姿を取り戻すための【主】の御業

だから、そんなイスラエルのために【主】は3節のように言われています。

52:3 まことに、【主】はこう言われる。「あなたがたは、ただで売られた。だから、金を払わずに買い戻される」と。

これはどうゆうことかという、元々、イスラエルがバビロンに捕らわれたのは、神様がバビロンから代価を受け取って、彼らにイスラエル人を売り渡したからではありません。神様はバビロンから何も受け取らずに一方的にイスラエルを彼らの手に渡されました。それはつまりイスラエルがバビロンに捕らわれたのは、バビロン側の手柄ではなく、神様のご意思によってすべてなされたということです。

日本には昔から「お客様は神様です」なんていう言葉があり、時々、これを真に受けて「客ならばお店の人に何を言ってもいいのだ」と思い上がって、無茶な注文をお店にする人達があります。その人たちはなぜ、そんなに偉そうにするのでしょうか。それは彼らがお金を払う立場だからです。「お金を払うのだからお店は客の要求に答えるべきだ！」と彼らは考えるのです。これはある程度は受け入れることができる理屈です。

ところが、神様はバビロンから何の代価を受け取ることなく、イスラエルを彼らに渡されました。だから、バビロンは本来わがままな要求を神様にする立場にいないのです。じゃあ、イスラエルの扱いを自由に決める権利を持っているのは誰かという、イスラエルを売ることも、買い取ることも自由にする事ができる神様なのです。

みなさん、神様に神の民を自由にする事ができる権利、主権がある。ということをご自分でよく覚えてください。イスラエルは4節にあるように一時的にエジプトの寄留者になったり、アッシリアにゆえなく苦しめられたりしましたが、それも全部神様の主権の中でなされたことだったのでした。

3) 神様の思い

そして、そんな神様はイスラエルの現状をみて眩いておられるのが5節と6節です。読んでみましょう。

52:5 さあ今、ここでわたしは何をしよう——【主】のことば——。わたしの民はただで奪い取られ、彼らの支配者たちは悲しみ嘆いている——【主】のことば——。また、わたしの名は一日中、絶えず侮られている。

神様はイスラエルの置かれている現状、バビロンに奪われた状態になっており、イ

イスラエルのリーダーたちが悲しみ嘆いている現状を見ておられます。そして、さらにその状況が、神様ご自身の名・・・つまり、本当の神様が侮られている状況であると言われてしています。みなさん、これは誰に侮られているのでしょうか？ バビロンにでしょうか？ いいえ、【主】の民であるイスラエルにです。

イスラエルは、神様に選ばれ、【主】の民とされた祭司の王国です。それなのに、その彼らが神様が自分を見捨てたといい、神様に対して絶望しつづけていたのだとしたら、それは彼らが神様を軽んじていることであり、神様を侮っていることに違いがないのです。だから、神様は言われます 6 節

52:6 それゆえ、わたしの民はわたしの名を知るようになる。それゆえ、その日彼らは、わたしが『ここにわたしがいる』と告げる者であることを知るようになる。」

つまり、イスラエルに対してすべての主権をもっておられる神様は、彼らが置かれている現状を正しく理解して、彼らがいつまでも神様を侮ることがないように、彼らに【主】が彼らのところにいることを告げ、神様の名・・・つまり、神様の臨在を知る事になると言っておられるのです。

みなさん、神様はご自分の民がいつまでも絶望し、神様に希望を持たない状態であることが我慢ならないお方なのです。だから、神様は私たちに向かって「ここにわたしがいる」と言われるのです。みなさん、例えみなさんが絶望して、神様の力を侮っていたとしても、神様はみなさんのところにおられるお方なのです。「わたしがここにいる」そうおっしゃってくださるのが神様なのです。

4) 王の帰還を受け入れて語る者

だから、神様はまことの王である神様が自分たちのところに戻ってきてくださっていることを受け入れ、それを伝える人のことを 7 節、8 節で教えておられます。

52:7 良い知らせを伝える人の足は、山々の上にあつて、なんと美しいことか。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神は王であられる」とシオンに言う人の足は。

みなさん、神様の名を知るようにされて、神様が自分たちと共にいてくださるということを知った人が、それを他の人に伝えようとするとき、神様はその人のこと

を美しいと評価してくださるのです。

みなさん、ここにいる多くの方は既に神様のことを知っておられます。そして、神様が自分と共におられることを知っておられると思います。そうであるのならば、それを平和な知らせとして、幸いな良い知らせとして人々に伝えるのならば、みなさんは【主】の前で美しい者となるのです。

ここで「美しい」と訳されていることばは、元のヘブル語聖書では「麗しい」とも「ふさわしい」とも訳すことができる言葉が使われています。みなさん、【主】を知り、【主】の臨在を知ったならば、それを伝えることが神様にふさわしい人の振る舞いなのです。そして、それは喜びの賛美を持ってなされるものです。なぜならば、それは自分たちから離れていたと思われていた【主】が、私達のところに戻ってこられたことを意味するからです。

52:8 あなたの見張りの声がする。彼らは声を張り上げ、ともに喜び歌っている。彼らは、【主】がシオンに戻られるのを目の当たりにするからだ。

そして、この賛美と証しは、世界中のすべての人に示されるものです。9-10節を読みましょう

52:9 エルサレムの廃墟よ、ともに大声をあげて喜び歌え。【主】がその民を慰め、エルサレムを贖われたからだ。

52:10 【主】はすべての国々の目の前に聖なる御腕を現された。地の果てのすべての者が私たちの神の救いを見る。

バビロン捕囚に苦しんでいたイスラエル人たちは、神様に対して「目覚めよ、目覚めよ。力をまとえ、【主】の御腕よ。目覚めよ」と叫びました。しかし、【主】は既に神の民に喜びの賛美を歌わせる救いの計画を持っておられ、その計画の通りに【主】の聖なる御腕を動かしておられたのです。

みなさん、神様は私達が知らない間に、救いのみ腕を私達のために振るっておられるお方なのです。そして、その救いの御腕によって神様のことをよく知ることができるようになってくださり、神様を賛美し、神様を告げ知らせる事ができるようになってくださるのです。みなさんはその喜びに満たされているでしょうか。そして、この神様の救いにふさわしく、【主】を証ししておられるでしょうか。

5) 買い取られた者へのもう一つの命令

このように【主】によって買い取られた者に、【主】はもう一つの命令をされています。それが 11 節です。

52:11 去れ、去れ。そこから出て行け。汚れたものに触れてはならない。その中から出て行き、身を清めよ。【主】の器を運ぶ者たちよ。

「去れ、去れ」というのはイスラエルの歴史的にはバビロンから去れということになるでしょうけども、でも、神様はあえてこの 52 節にバビロンという名前を入れておられません。つまり、バビロンに限らず、【主】に買い取られたものは等しく、汚れた者を避け、汚れた環境から出ていき、神様の前に身をきよめることが求められているのです。

私達は【主】の主権によって、神の民として買い取られ、神様の恵みによって、【主】の名を知り、【主】がここにいることを知るようにされました。そんな私達に対して【主】は、汚れに触れることを禁止され、そこから出ていくように命じておられるのです。これは私達が意識して取り組むべき課題です。

例えば、性的な誘惑に弱い人は性的な誘惑や汚れから離れるべきですし、金銭的誘惑に弱いならば金銭的な汚れから離れるべきです。私達を買い取られた【主】は私達に罪を犯させる汚れから離れるように命じておられます。

しかし、多くの方は自分の力で罪から離れることは難しい。罪や汚れから離れたらと思うけども、頑張っても離れることができない。といます。

【主】はそんな私達に対して励ましのことばを語っておられます。12 節を読みましょう。

52:12 あなたがたは慌てて出なくてもよい。逃げるように去らなくてもよい。

【主】があなたがたの前を進み、イスラエルの神がしんがりとなられるからだ。

みなさん、神様は私達に去れと命じておられましたよね。でも、中々、罪から離れることができない。去ることができない私達の弱さも知っておられます。だから、【主】はいわれるのです。「あなたがたは慌てて出なくてもよい」と。

イスラエルの歴史を振り返るとき、結果的に【主】の民はエジプトやバビロンから出ていきます。でも、出エジプトの時にどうやって彼らはエジプトから離れることができたのでしょうか。中々、イスラエルを解放しないファラオに対して、神様が

幾つもの奇跡を行ってくださり、エジプトに完全に勝利してくださった結果、彼らはエジプトを去り、【主】の導くところへ移動することができました。また、バビロンからの解放もイスラエルが頑張ったからではなく、神様がペルシャの王キュロスに働いてくださからでした。

私達が罪から離れるときも同じです。焦って自分たちの力で罪の支配、罪の誘惑、汚れた環境から離れようとしてもできません。でも、神様が必ず私達の前に立ち、私達が進むべき道を作り、私達の後ろに立ち、私達を攻めようとするものから守ってくださるので、その神様の導きに従って、罪、汚れから離れ、それらが支配する場所から去っていけばいいのです。

神様は私達に汚れから去れと命じながらも、慌てなくていいと励ましてくださり、私達が罪から離れる道を作り、私達の背後を守ってくださるのです。

結論)

みなさん、私達は何者でしょうか？

私達は【主】から、目を覚まして力をまといとわれ、さらに美しい衣をまといとされている者です。

そして、【主】の主権によって、【主】に買い戻された者です。それが本来のわたしたちの姿なのです。

それなのに私達がいつまでも【主】に期待せず、【主】を侮っていることを【主】は、お許しになりません。だから、【主】は私達を買い取り、私達に【主】の名を教え、「ここにわたしがいる」と語って、【主】の臨在を示してくださるのです。みなさんはこの【主】のことを他の人に語っておられるでしょうか。

【主】に買い取られた者が美しい衣を纏うためには、このお方の福音を大胆に証し、賛美していただくことが必要なのです。【主】はそのように証するものの足を「美しい」と評価してくださいます。

そして、【主】は、私達が罪、汚れから去るようにも命じておられます。しかも、慌てなくて良いという励ましを添えてです。【主】は、私達が罪から離れる道を作ってください、罪の誘惑から守ってくださるお方です。

だから、このお方を信じて、焦らず、恐れず、罪の支配、サタンの王国から離れていきましょう。